

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503528		
法人名	合資会社オープンハート		
事業所名	グループホーム美優平岸		
所在地	062-0932 札幌市豊平区平岸2条5丁目1-11 第2柳田ビル1階		
自己評価作成日	平成24年8月1日	評価結果市町村受理日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503528-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503528-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設7年目を迎えており、理念である「日々の暮らしの中でその人らしくいつまでも尊厳のある心豊かで安らかな生活を目指します。」をモットーにし、利用者様一人一人の個性を大切にしながら暮らしを行っている。利用者様が率先して食卓の準備をされたり和やかに楽しく会話をされながら、食卓を囲まれ、地域(町内会)の人々との交流も積極的に行い、行事(イベント)参加や外出等にも力をいれております。季節行事(雑祭り等)にちなんだ食材を使い料理したり季節にあった装飾等も取り入れホーム内でも季節感が味わえるように工夫をこらしている。毎月研修会を行い、職員教育を重視し、独自の研修プログラムを開発、取り入れ、スキルアップに繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅から徒歩圏の、商店街の近くにある1ユニットのグループホームであり、マンションの1階部分の1フロアがホームとなっている。近くに公園や商店街、病院、大規模な団地があり、利便性や居住環境に恵まれている。ホーム内では利用者と職員がいつも楽しく話しており、室内の飾り付けや調度品も家庭的で温かみがある。また、毎日のように午前中、全員で散歩に出かけ、自然に親しんでいる。地域との交流も活発で、「ふれあい広場」というサークル活動に参加したり、町内会の日帰り温泉ツアーにも多くの利用者が参加している。介護サービスの面では、定期的なアセスメントシートの見直しと内容の共有化、ルールに沿った介護計画の作成および見直し、日々の記録の記載がなされている。災害対策の面では、避難訓練に加え、利用者および職員全員で防災センターに出かけて研修を受けるといった先進的な取り組みも行われている。食事は管理栄養士の献立に沿って、複数の利用者が調理に参加しており、誕生日などには献立に利用者の希望も反映している。入浴の面でも、使いやすい浴室を整備し、各利用者が概ね1日おきに入浴を楽しんでいる。ミーティングおよびカンファレンスの他に、職員研修の機会を設け、全員でサービスの向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の理念に加えて地域との交流を重視した地域密着型サービスとしての理念を事業所独自で作り上げ日々のサービス提供の中で実践している。職員採用時研修には理念を伝える為のロールプレイ等を取り入れ、職員全員が参加し組織の一員としてその自覚とプロ意識を育成すると共に職員が常に理念を共有できるよう教育を徹底している。	尊厳のある安らかな生活をめざすという開設時の理念に加え、地域との交流を重視した理念を作り、地域密着型の理念として確立している。理念は共用空間や玄関に掲示され、研修などの際に確認し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動(ゴミ拾い等)に参加している。又地域のサークル活動メンバーの訪問を受けるなど暮らしやすい環境、馴染みの暮らしの継続を目指し積極的に地域の人々と交流している。	町内会の行事である花植えやごみ拾い、サークル活動、日帰り温泉などの行事に利用者と共に参加している。サークル活動のメンバーが踊りや演奏を披露しにホームを訪問してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、町内会役員、地域包括支援センターの職員に参加してもらい、施設等案内したり、認知症について正しい知識を持ってもらったりして交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、町内会役員、利用者、家族、包括支援センター職員等が参加、介護改定に関する研修時期や状況に対応する活動内容を協議しながらサービスの内容を明らかにし地域に開かれたサービス、質の確保を図るように実践している。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会役員、消防署、家族代表などの参加を得て、介護保険制度、認知症、防災、外部評価などのテーマで意見交換している。また、家族の面会時に内容を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の担当者とは、入居に関する連携や運営に関する指導・助言を待っている。入居様の近況訪問にこられ近況報告して頂いたり、又会議やその他の機会を利用し事業所の実情を伝える等の情報交換や対応への協力を得ている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ており、管理者は区の管理者会議などでも行政担当者と情報交換している。区役所の車いす貸し出しを利用している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束のないケアを実践していると共に身体拘束等の研修会を開催し、日々職員間で意識を統一し1つの目標に向かって取り組んでいる。	身体拘束は行われておらず、マニュアルが整備され、禁止の対象となる具体的な行為を記した資料に基づき研修している。さらに事例演習で理解を深めている。玄関は日中は施錠せず自由に出入りすることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めていると共に職員同士意識を高めあい、日々のケアに努めている。		

グループホーム美優平岸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見に関する制度の理解を深める為に外部研修を受講した職員に報告を兼ねて全職員にて研修会を開催して理解して頂き同じ目標に向かって確認を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分な説明を行い、理解、納得を図れている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自室等利用者が落ち着いて話せる場所において雰囲気を作っている。面会時や会議等でモニタリングシートやケアプラン、アンケート、預かり金出納報告確認書等に意見を頂き、話の内容等を運営に反映させている。	家族の来訪時に意見を聞くほか、個々に意見を書いてもらう用紙を送付し、返送してもらっている。家族から得られた意見は連絡ノートで共有している。玄関には意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員専用ノートに記入したり、月1回のミーティング、研修会などで話し合いを行い反映をさせたり、通常業務の中でも管理者が職員との話し合いを設け意見を聞き入れ他職員との連携を図っている。	毎月1回、ミーティングおよびカンファレンスを開催し、活発に意見交換している。また、職員はレクリエーション、装飾、年間行事、備品管理、清掃、食材管理などの役割を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常業務で複数職員との会話を設けたり、個別に話し合いを設けたりし、連絡をこまめにとり給与等において反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内がこられた場合、積極的に参加、研修会及び日々のケアの中でスキルアップに努めてより良い介護が出切るように日々切磋琢磨しながら努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度中々他同業者との交流に参加する機会が少なかったが、月1度話しあいの場を設け、カンファレンス、研修会を実施している。今後機会が増えれば積極的に研修会等に参加したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	遠慮され、我慢されがちなので積極的にコミュニケーションを図りお話を伺い受け止めるよう心がけたり、ちょっとした仕草や小さなサインを見逃さないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時や電話連絡等、家族と良くお話をさせて頂き要望等を受け止めるよう心がけたり、アセスメントを活用させて頂き密に受け止められるように図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を話し合いの中やアセスメントにて見極め対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、掃除、洗濯等、日常生活の中で、知恵を頂きながら、日々の生活を共に支えあえる関係を築き、信頼関係を築いていっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・電話連絡等で日々の出来事を連絡、報告し、特変があった時も必ず連絡、報告し、職員間と家族との信頼関係を築き上げ共に支えていく関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームで生活する中でも、馴染みの物を環境面に活かし、面会や外出・外泊をされながら、馴染みの人や場所等の関係が途切れないよう努めている。	知人や友人が来訪するほか、電話を取り次いでいる。近くの美容室や商店など、馴染みの場所への外出を支援している。居室にも馴染みの生活用品を数多く置いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者様同士で関係が持てるようにきっかけや話題を提供したり、食事作り、片付け、掃除、ティータイム、レクリエーション、散歩などの声がけをし、利用者同士の係わり合いに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする利用者が今の所いません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人一人が利用者様との会話の中で希望や意向等を把握し、カンファレンス・ミーティング等を利用し、意見を交換し、困難な場合は本人本位に検討を行っている。	言葉で表現できる利用者が多いが、把握が難しい場合も、しぐさや過去の経験から意向を把握している。センター方式のアセスメントシートを作成し、1年毎に見直しを行い情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学時、入居時、家族、利用者様と話し合いを行い、アセスメント等に記入して頂いたりして、生活環境等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活において現状を把握し、心身状態の変化等ある場合記録し、カンファレンス等にて、全職員が確認したり何かあれば申し送りを行い注意を払い努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて、看護師、介護支援専門員との話し合いの中で意見やアイデアを出し合い介護計画を作成したり、家族さんにアンケートを実施したり面会時に日ごろの様子を報告しながら意見を頂いたりして作成している。	介護計画は3か月の期間で見直ししている。毎月のカンファレンスを基に全職員の意見を集約して次の介護計画を作成している。日々の記録も介護計画の目標項目を意識して記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノートに記入したり、日々の生活の中で変化や特変等があれば、その日の職員が管理者に報告し、指示を仰ぎ、全職員に情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や散歩、家族との面会や外出、外泊など様々な支援を行い、又天気の良い日等にはお出かけしたり、おやつでアイスクリーム等を召し上がられたりされ、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、地域包括、町内会等とも協力し、本人の意向や必要性に応じ、その人にあった支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、訪問診療をご本人、ご家族の希望にそって行ったり、他病院に受診する時も家族様に連絡相談を行っている。	協力医療機関による月1回の往診と2週に1回の訪問診療を受けており、その他の通院も家族の送迎が難しい場合などホームで受診支援している。受診記録を作成し、必要に応じて家族に報告している。	

グループホーム美優平岸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と情報交換をまめに行い、利用者の健康管理や医療活動を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を密に行ったり、お見舞いといったりした際、お話をお聞きしたり、相談したりして、早期に退院出来る様関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携指針を作成し、ご本人家族と話し合いを十分に行い説明させて頂いている。	利用開始時に医療連携体制指針に沿ってホームでの看取りに対する考え方を説明し、署名をもらっている。実際に重度化した場合は再度説明し、希望に沿った対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災センターにて救急講習会に全職員が参加したり、職場に来ていただき、AED等の応急手当や初期対応ができるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が避難訓練に参加したり、研修会等で災害対策の知識、情報を共有し、災害時に地域の方に協力して頂けるように働きかけをしている。	年2回、消防署や地域住民の方の協力を得て夜間を想定した避難訓練を実施している。また、年に一度、防災センターでの訓練にも参加しており、その際に救急救命訓練も受講している。災害時に必要な備品も準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の人格や性格を把握し、声がけや接し方のしかたを工夫して対応している。	「～さん」と呼び掛けているが聴力が低下している利用者には、大きな声で言葉かけをすることもあ	今後も言葉かけについての職員教育を充実させていきたいという意向があり、その実現を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活会話の中で、利用者の希望をお聞きし、叶えられることは支援させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごされる際は、ご本人のペースに合わせて、様子を伺いながら声がけさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の好みを大切にして髪型、服装、化粧など支援をさせて頂いたり、レクリエーション等でマニキュアを行ったりしている。		

グループホーム美優平岸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に話をされながら調理や食事、後片付けを行って頂いている。一人一人がもっている出来る力を活かしながら支援させて頂いている。	一人ひとりの力を見極め、食材を切る、盛り付けをする、お茶を入れる、お米を研ぐ、食器を洗う、戸棚に片付けるなどの家事が継続できる環境を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリー計算されたバランスのよい献立や行事食等をご提供させて頂き、個々の体調に合わせ、お粥やきざみ食等で対応しております。水分補給も1日を通じて、摂取出来る様に支援させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔洗浄が出来る様に声がけ見守りにて行って頂いております。又介助が必要とされる場合は支援させて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿間隔を把握し、トイレへの声がけ・誘導を行っている。介助が必要な場合は一緒に付き添いにて行っている。	水分摂取量と排便の有無についてチェック表にて把握している。排泄動作が自立している利用者もいるが介助が必要な場合は、立ち上がった歩き出したりする様子を見てトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因に及ぼす影響を理解し毎日の排便確認を欠かさず、朝の体操、食前の体操、メンタル体操やレク等を行ったり、飲食物に関しては、栄養士が考えたメニューを用いて工夫し、毎食後やおやつの際に水分等も勧めるようにし予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	外出等され汗をかいて帰ってこられた時や、失禁したときなども入浴して頂き、体調の悪いときや気分の優れないとき、病院受診時の前後の日等にも気をつけ個々に支援を行っている。	入浴を楽しみにしている利用者が多いので、色々な入浴剤を使いながら、毎日昼食後から午後3時頃までを目安に入浴をしている。嫌がる場合は、「いつもお世話になっているので背中を流させてください」と感謝の言葉を伝え入浴を楽しめるよう介助をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調により、入浴後や外出や気分の悪いときは、休んで頂いたり、眠れないときは、本人と会話したり、自室にてTVや読書などをして頂き、本人が安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の薬の支援は、受診時、往診時、急変時にその都度職員が状態をきちんと把握管理させて頂き、声がけ見守りにてきちんと服用できるように確認を行ったり、カンファレンス等にも確認させて頂いたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様、一人一人の役割を作り行って頂いている。好きな事得意な事を取り入れ行って頂いている(読書、手芸、トランプ、塗り絵、囲碁)		

グループホーム美優平岸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望がある時は、外レク等外出にて買い物され、家族さんが面会にこられた際外出し一緒に出かけ、近隣であれば職員と一緒に散歩がてら買い物に行かれたり支援している。	雨や暑さなどを考慮しながら、ほぼ毎日午前中に利用者全員が近隣の公園などを散歩している。また、季節毎にいちごやさくらんぼ、とうきび狩りなどに出かけたり大通のビアガーデン、カラオケボックス、映画館などに出かけ地域での生活を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない方は、職員がお預かりしてありますが、金銭管理の出来る方は、小額自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から電話が来たときや、本人が電話を掛けたいといわれた際は、ホームの電話を使用している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間をいつも清潔にし不快音や光を出さないように注意し、1ヶ月ごとに利用者様にお手伝いをして頂き、季節に合わせた装飾をしている。廊下の壁には、行事の写真などを貼り付けし、利用者様がいつでも見ていただけるように展示している。	建物は保育園を改修したものであり、使い込まれたソファやオルガンなどの家具を置き、家庭的な環境づくりをしている。居間の大きな窓から隣接するレンガ作りの倉庫と緑の庭木、風に揺れる洗濯物、畑のトマトやなす、青空が見える。毎月、装飾を担当している職員と利用者とその季節毎のちぎり絵を作り、壁一面に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員で過ごせるリビングソファとダイニングテーブルがあり、利用者様に好きな場所に座っていただき、気のあった利用者様とお話をされたり、新聞を読まれたり、TVを見られたりしながら過ごされ、個々の空間がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、家族様とも相談し、馴染みにしていた家具などを持ち込み本人の居心地の良い空間・環境作りを努めている。	配偶者の遺影、仏壇、長年大切に用してきた鏡台や椅子、テーブルなどを置き、思い出のある縫いぐるみや本、写真などを飾っている。各居室には、個別ののれんを掛け本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに目印をつけたり居室に表札を下げて混乱や失敗を防ぐようにしたり、声かけをしたりして自立した生活が送れるように支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム美優平岸

作成日：平成 24年 10月 11日

市町村受理日：平成 24年 10月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保	声掛けの強弱や、言葉使い、コミュニケーション等の研修会を行い、職員間で実技研修も取り入れ共有し運営に反映させていくよう取り組んでいく。	声掛けの技術等の研修会を年に2回しか実施していない為年に4回は取り組み、意識を高めると共に、職員一同で徹底し、声掛けやコミュニケーション等の外部研修があれば積極的に参加し、新しい知識も取り入れ職員の知識の幅を広げ、運営に役立てて行く。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。